



宮司 柴田 宜夫

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十三年十二月 六日

◇ 宮司の柴田です。 鮮やかな紅に染(そ)まった神門下の紅葉葉(もみじは)は、ときおり吹き抜ける風に、葉を散らし始めました。 ようやく、冬の訪れを感じさせる昨今です。時は早く流れて十二月を迎えました。

◇ 十二月の事をなぜ、師走というのでしょうか。 諸説(しよせつ)ありますが、皆忙しく、師匠(ししょう)といえども趨走(すうそう)、ちよこちよこと走るという意味です。)するところから、「師趨(しすう)」となり、これが転じて師走になったとする説が一般的です。 また、「歳極(としはつ)る月」であるという説、一年の最後の月であるという事でしようか。 あるいは、「万事(ばんじ) 為果(しは) つ月」という説、仕事納めと解釈(かいしゃく) 出来るのではないでしようか。 何かと気忙(きせわ)しく、慌(あわ)ただしい年の瀬を迎えています。

◇ 明後日の十二月八日は、日米開戦七十年ですし、来年は、昭和二十七年にサンフランシスコ講和条約に調印し、わが国が、国際社会に復帰して六十年という節目の年を迎えます。 今年

の年頭に、日本は、明治維新さらには、戦後の復興に引き続いて、三回目の奇跡を起こさなければならぬ正念場だといわれました。「国家の品格」を著(ちよ)された藤原正彦さんも、その本の中で、日本は、六番目の危機を迎えているとおっしゃいました。 元寇(げんこう)、明治維新、日清戦争、日露戦争、戦後そして、今だとおっしゃったのですね。 実は、いづれの危機も、国内の戦争、いわゆる内乱(ないらん)や他国との戦争から危機に陥(おちい)つていきますよね。 そして、その危機からの脱出

というのは、まさに平和への歩みなのであります。 明治二十年に、明治天皇様は、

池みづの上にもしるし 四方(よも)の海 浪(なみ) しづかなる 年のはじめは

との御製(ぎ)

よせい、天皇陛下の詠まれた和歌の事です。)を詠まれています。 小さな池の水でさえ波ひとつ立たない平和な年の始めであるように、この新年が、世界各国が平和で、波乱につながるさざ波も立たない、無事を願われた御製です。 さらに、日露戦争を前にされた明治三十七年に

は、

よもの海 みな同胞(はらから)と 思うふ世に など波風の たち騒ぐらむ

と詠まれました。 世界の人類は、皆兄弟同様だと考えているのに、戦争が何故起こるのかという政治の不条理をお嘆(なげ)きになつていらつしやいます。

◇ 実は、平和とは、残念ながら戦争と戦争の間の時期、「戦間期」なのだそうす。 記録に残る人類の歴史五千年で、主要な戦争は一万四千回以上、戦死者は、地球人口に匹敵(ひつてき)する五十億に達するそうであります。 過去の三千四百年間で、平和な時代は、二百五十年にすぎないそうです。 戦後の六十六年の平和な時代、かけがえのない時間と思いませんか。 これから、けつして、「戦間期」にしてはいけないのでありますね。 その六十六年前は、世界から完全に孤立(こりつ)していた、世界中(せかいじゅう)を相手に戦争していたのと対照的に、今日では、国際社会との相互依存体制が確実に存在していますよね。 これも、まさに、奇跡ですよね。

◇ 戦争は、三つに分けられるそうです。「ホーリー ワー 聖戦(せいせん)」、「ダーティ ワー 汚(きたな)い戦争」、そして「ジャスティ ワー 正義(せいぎ)戦争」です。 これまでの日清・日露・大東亜(たいとうあ)の戦

争は、「ジャスティ ワー 正戦」だと、次世代に伝えていかなければ、恒久平和を願って尊い命を犠牲にされた御英霊（こゝえいれい、戦争で尊い命をなくされた方々の事です。）の御恩に報いる事が出来ずに、「戦間期」という過ちを繰り返してしまふような気がしています。大東亜戦争だけで、軍人、民間人を合せて三百万人も命が失われているのですから。

◇リーマンショックから、東日本大震災、さらには台風の被害、タイの大洪水と不幸の連鎖（れんさ）であります。産業界を取り巻く環境は、歴史的円高・雇用規制・国際的に不公平な環境規制・高い法人税・出遅れた貿易の自由化・電力不足の六重苦、農水産業は、TPPへの交渉参加と大変厳しい状況であります。

「日本が敗戦から早く復興できた秘密は何か」というケネディ大統領の質問に、当時の大平外相、（後の総理大臣）は、「日本という国は、災害が多く、日本人は、耐えて、克服し、災害前よりは日本をよくするんだ」という気概を忘れなかった。この力が復興力だ。」と答えたそうです。これからは、「震災後」を、「戦後」というキーワードに替えて、大震災の前よりも良くするんだという気概を持って生活を心掛けたいものですね。三回目の奇跡を起こす原動力となるように。来る年も、皆様方の御多幸を心からお祈り申し上げます。

◇十一月、十二月の祭典行事報告

▼月次祭 *十一月一日、十五日

▼敬神婦人会研修旅行 *十一月五日

*柴田宮司の実家の小熊野神社参拝（上の写真）

▼下関ルミエールの会参拝 *十一月十六日

（下の写真）



▼保育園児参拝 *十一月中旬

（上の写真）しおかぜの里保育園

（下の写真）第二保育園



▼六連島新嘗祭 *十一月二十五日

▼月次祭 *十二月一日

▼新嘗祭 *十二月四日

▼大注連縄おろし *十二月四日

◇十二月の祭典行事予定

▼月次祭 *十二月十五日

▼朝粥会 *十二月二十一日

▼田の首八幡宮注連縄祭り*十二月二十三日

▼正月臨時巫女説明会 *十二月二十三日

▼天長祭 *十二月二十三日

▼大祓式、除夜祭 *十二月三十一日

◇十二月の宮司の行事会議等予定

（報告含む）

▼当宮関係団体

◇維蘇志会忘年会 *十二月十日

◇奉賛会・維蘇志会・敬神婦人会合同忘年会

*十二月二十三日

▼山口県神社庁並びに下関支部関係

◇支部幹事会 *十二月二日

◇神宮月次祭奉仕 *十二月十四日、十六日

▼西ロータリークラブ

◇例会 *十二月七日

▼講演活動 ◇宮司講和会 *十二月四日

▼その他

◇人権大会 *十二月十日

